

雪の音

Vol.137

令和元年10月15日発行



巻頭言	働き方改革と生産性向上を担い手確保に繋げる	北陸地方整備局長 吉岡幹夫	1
特集	「水の郷こまつ緊急治水対策プロジェクト」と 「ミズベリングコース」について	国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所	2
随想	人生のレール	中田千鶴子	6
寄稿文	富山特産サクラマスの過去、現在、未来	富山県農林水産総合技術センター水産研究所 所長 田子泰彦	8
ちょっと気になる コーナー	大連観光(中国)と中国料理チャンピオンシップ	(株)新潟トラベル 常務取締役 山崎康裕	12
お知らせ	2019年度 建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務・研究発表会	技術部会 統括技術委員会	14
お知らせ	社会貢献活動 ふるさと富山美化大作戦実施	富山事務所	18
お知らせ	令和元年度 おやこ見学会	広報部会	19
お知らせ	令和元年度 北陸支部防災演習の結果	災害対策部会 総務委員会	21
気分もリセット 体もリセット	首こり・肩こりケア	宮崎夏海	23
	会員名簿 各部会・委員会委員名簿	事務局	24
	編集後記	古橋伸彦	

〔題字〕

元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

〔表紙・裏表紙写真〕

タイトル わがふるさと 黄金の里
撮影地 新潟県五泉市蛭野地内
撮影者 猪俣孝之

巻 頭 言

働き方改革と生産性向上を 担い手確保に繋げる

北陸地方整備局長
吉岡 幹 夫



近年、建設業を取り巻く環境は大きく変化し、特に頻発・激甚化する災害対応の強化、長時間労働の是正などによる働き方改革の推進、情報通信技術の活用による生産性向上が急務となっています。

頻発・激甚化する災害対応の強化については、昨年12月の「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の閣議決定を踏まえ、2020年度までの3年間で集中的に実施することとしており、北陸地方整備局としても自然災害に対する社会資本の強化に万全を期していくとともに、引き続き、必要な公共事業予算の確保に努めて参ります。

組織面でも、本年4月に「統括防災官」いわゆる防災部を設置して、非常時だけでなく、日常時においても自治体の方々との連携をベースとした防災・減災対策に取り組むこととしています。引き続き、色々なご意見をお聞かせ頂きながら、「いざ」という時に広域的かつ効率的に応援ができるような体制等を考えていければと思っています。

長時間労働の是正などによる働き方改革については、本年4月1日より改正労働基準法による時間外労働規制の施行が始まりました。建設工事は5年後の施行ですが、建設コンサルタント業界にとっては、今年度からの施行であり、待ったなしの対応が迫られているところです。そのためには、これまでの既成概念にとらわれない対応が必要であり、①国債、繰

越制度の活用や早期発注などによる「発注・納期の平準化」、②ウィークリー・スタンスの実施など受発注者協働によるワークライフバランスの改善の取り組み、③BIM/CIM活用等をはじめ「i-Constructionの推進による生産性向上」などを進めていく必要があります。本年6月の品確法改正により、調査・設計の品質確保が明確に位置付けられ、発注者としての使命を果たすため、建設コンサルタンツ協会の皆様とも情報、課題等を共有しながら、各種取り組みの実効性を高めていければと思っています。

一方、我が国では、高度経済成長期以降に整備されたインフラが今後一斉に老朽化することが見込まれています。このようなインフラの計画的な維持管理・更新を行い、国民の安全・安心の確保はもとより、トータルコストの縮減、平準化等も図っていく必要があります。そのためにも、設計段階から良く考えていかなければならず、メンテナンス時代にふさわしい業務体系や積算体系も考えていく必要があるのではないかと考えています。

いずれにしても、受発注者協働による働き方改革と生産性向上により、その結果として担い手が確保されていくことが最も重要だと思っておりますので、引き続き、ご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

「水の郷こまつ緊急治水対策プロジェクト」と「ミズベリングコース」について

国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所

梯川（図1）では、平成29年度までに河口から約6kmの白江大橋までの間の引堤が完成しました。平成30年度からは、上流の治水安全度の向上を図るため、「水の郷こまつ梯川緊急治水対策プロジェクト」として改修を進めています。また、引堤が完成した河口から小松大橋（河口から約3km）においては、小松市の整備により水辺を中心とした賑わい創出「ミズベリングコース」が今年度完成しました。本報告では、これら梯川改修及び地域と連携した水辺利用に関する取り組みについて紹介します。



図1 梯川の位置図

1. 梯川流域の概要

梯川は、その源を石川県小松市の鈴ヶ岳に発し、山間部を北流し郷谷川等を合わせた後、手取川と梯川によって形成された扇状地を西に蛇行して、鍋谷川や八丁川の支川を合わせつつ小松市街地を貫流し、河口付近で木場潟より流れ出る前川を合わせて日本海へ注ぐ、流路延長42km、流域面積271km²の一級河川です。

梯川は、流域面積が小さく洪水の流出時間が早いことから、避難や水防活動の時間確保が困難であるという洪水特性を有しています。流域は、山間部と海岸砂丘に囲まれた低平地を抱え、ひとたび氾濫が発生すると、浸水域は広範囲かつ浸水深も大きくなり、また外水・内水氾濫が複合的に発生して、浸水継続時間も長期化しやすい地形となっています（写真1）。



写真1 梯川流域の地形特性

一方、氾濫域の下流部には、小松市や能美市の市街地が広がり、繊維・機械等の産業が集積しています。沿川には、小松空港や北陸自動車道、国道8号、JR北陸本線等の関東や関西と北陸を結ぶ基幹交通ネットワークが形成され、2023年春の敦賀開業に向けた北陸新幹線整備が進んでいます。また、縄文・弥生時代の遺跡、歌舞伎の勧進帳で知られる安宅の関、加賀藩三代藩主前田利常により創建された小松天満宮（写真2）や小松城等の史跡・文化財、九谷焼等の伝統産業があり、これらは流域の社会・経済・文化の基盤をなしています。



写真2 国指定重要文化財 小松天満宮本殿

2. 梯川下流部の進捗状況

梯川では、昭和34年に小松市内で本川堤防の決壊による氾濫が生じました。その後、昭和43年に支川の八丁川、鍋谷川の堤防決壊による洪水被害が発生したことも踏まえ、昭和46年に一級河川に指定し、国による河川改修に着手しました。

なお、下流部である市街地においては、一般家屋等の移転を伴う大幅な河川の拡幅計画であったことから、平成11年に前川合流点（河口から約1km）から白江大橋（河口から約6km）までの区間を都市計画決定しています。これにより、道路整備や家屋移転等のまちづくりと一体となった整備が進められるとともに、平成29年11月には小松天満宮を現位置に存置する梯川分水路が完成しました（写真3、4）。

これら下流部（河口から約6km付近にある白江大橋までの間）における改修事業の進捗により、平成30年7月洪水では、避難勧告が発令された平成16年10月洪水と同規模洪水であったにも係わらず、浸水面積を約8割、被害額を約7割減少させるなど、着実に事業効果が発揮されています（図2）。

一方、上流では未だ改修途上であることから、洪水氾濫など水害発生リスクは残されており、引き続き計画的に整備する必要があります。



写真3 小松新橋から白江大橋間の引堤等実施状況



写真4 小松天満宮改修（分水路方式）H29.11完成

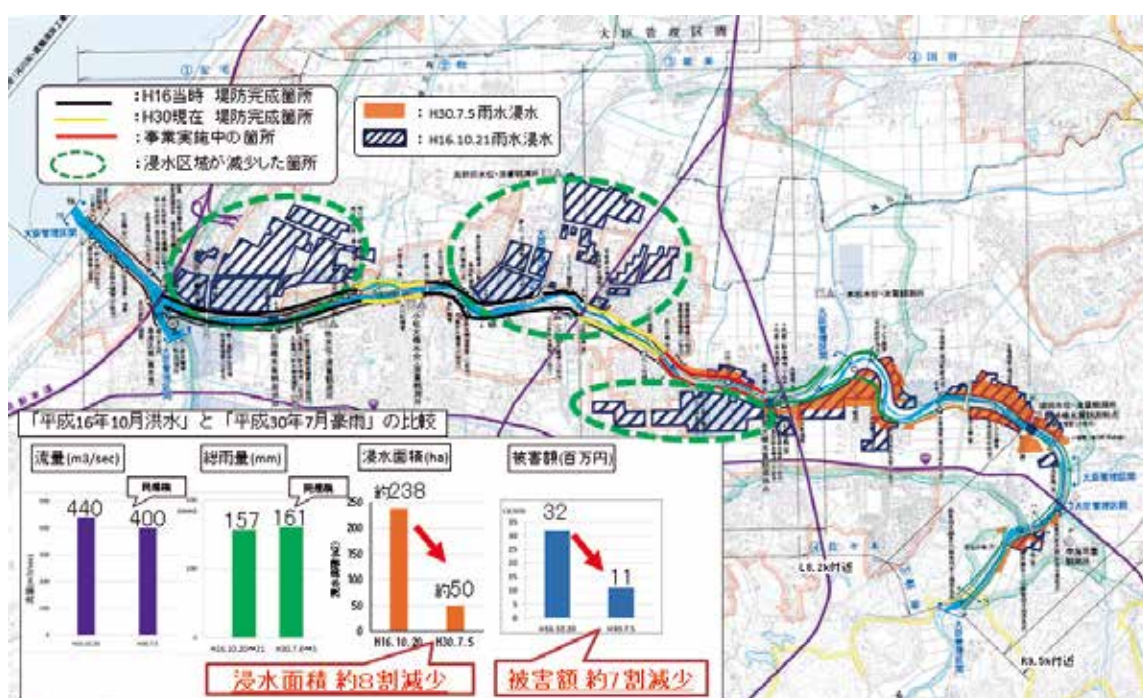


図2 平成30年7月出水における事業効果

3. 氾濫危険水位の見直しについて

梯川の引堤や河道掘削は下流から順番に進めており、これまでも河川改修の進捗にあわせて段階的に氾濫危険水位を見直してきました。

埴田水位・流量観測所における氾濫危険水位（避難勧告の目安となる水位）は、平成25年に、前川合流点から小松新橋までの整備完了により3.60mから4.20mへ引き上げられています。さらに、その後、白江大橋までの引堤が進んだことから、今年度には氾濫危険水位を4.60mまで引き上げました（図3）。

なお、氾濫危険水位の高さが引き上げられると避難勧告発令の頻度が減少することに繋がりますが、近年の異常気象発生に伴う防災・減災対策、住民自らが命を守る行動をより確実なものとするため、氾濫した場合のリスク周知やマイタイムラインの作成支援など、引き続き、地域と連携を強化していくこととしています。

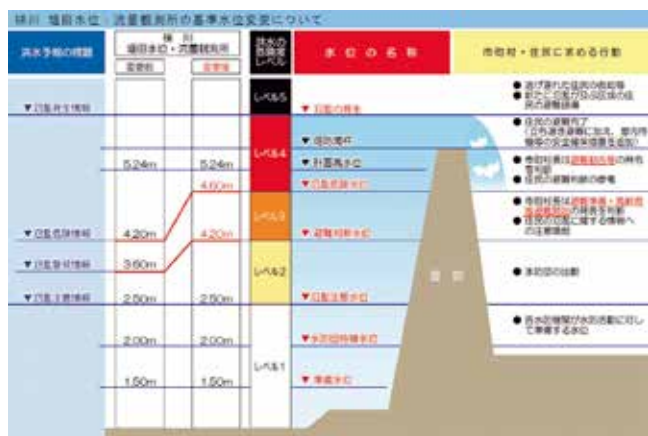


図3 梯川埴田水位・流量観測所における基準水位の見直し

4. 梯川上流部の進捗状況

現在、白江大橋から上流については、治水安全度の向上は喫緊の課題となっていることから、白江大橋から荒木田大橋（河口から約9km）までの一連区間について「水の郷こまつ梯川緊急治水対策プロジェクト」として、重点的に河川改修を実施しています。これにより観測史上最高水位を記録した平成25年7月洪水と同規模の洪水が発生しても、概ね全川にわたって計画高水位以下で流下させることが期待できます（写真5、図4）。

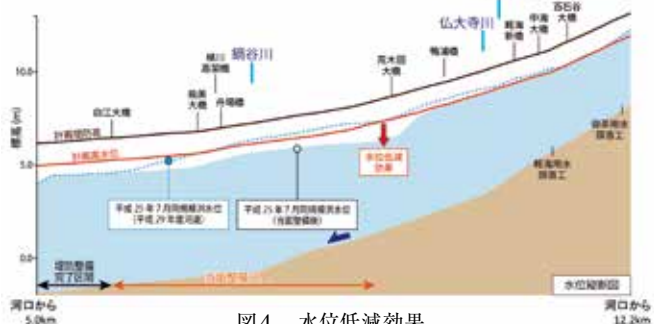


図4 水位低減効果

この「水の郷こまつ梯川緊急治水対策プロジェクト」の着手に際し、ネック橋梁である能美大橋の架替を実施中ですが、現橋の幅員が狭いことを踏まえて、道路管理者（小松市）と連携し2車線での整備を進めています。このように河川改修だけでなく、地域の交通利便、歩行者や通学者の安全性の向上にも配慮して事業を進めています。

また、梯川沿川は、埋蔵文化財包蔵地区が多いことから必要な調査を実施し、地域の歴史にも配慮して丁寧に改修を進めているところです。



写真5 「水の郷こまつ梯川緊急治水対策プロジェクト」概要図

5. 河川利用と防災教育支援について

引堤が完成した区間のうち、河口から小松大橋では、小松市が「梯川ミズベリングコース」として、梯川沿川の名所を巡るウォーキングコースを整備しました(図5)。このコースは、水の郷こまつの魅力を堪能できるコースとなっており、小松市と連携して、案内看板や距離標、路面標識、照明灯、フィットネスベンチなどが設けられています。また、水辺から繋がる交流の拠点施設として、今年3月、前川合流点付近に小松市により「梯川ボートハウス」が完成しました(写真6)。

今年度も「水辺で乾杯」では小松市長をはじめ多くの方に参加いただくなど、徐々にではありますが水辺での賑わいに向けた動きが広がっています(写真7)。



◇ コース整備内容

● 案内看板	7ヶ所	W1600×H1800 (表示面 W1200×H900)
● 距離標(路面標示)	6ヶ所	屋外路面印刷シート W600×H1000
● ルート案内(路面標示)	15ヶ所	屋外路面印刷シート W600×H1000
● フィットネスベンチ	1基 2基	
● 照明灯	4灯	LED防犯灯
● 階段	1ヶ所	W=2.0m
● 蓄光タイル	93枚	2mピッチ

図5 ミズベリングコース整備状況



写真6 小松市の梯川ボートハウス



写真7 2019水辺で乾杯 in 梯川

このように、川への親しみが高まっている一方、防災への意識も忘れないよう、ボートハウスの完成に合わせて前川排水機場にある「梯川手づくり学習館」を今年3月にリニューアルしました。この防災教育に関するブースでは、洪水時に金沢河川国道事務所が実施している水防警報や洪水予測、河川パトロール及び前川排水機場の操作などが体験でき、オープンイベントでは地元の小学生25名が参加し、洪水対応の仕事を体験しました(写真8)。



写真8 梯川手づくり学習館での体験状況

6. おわりに

近年、全国的に気候変動によると思われる洪水被害が多発しています。河川改修といったハード整備だけではなく、ソフト対策や関係市町との連携強化等が不可欠であり、特に未だ河川整備が十分ではない梯川ではその取組が重要となっています。

引き続き、小松市をはじめ地域の方々との連携を強化し、防災・減災、国土強靱化を進めてまいります。

随想 人生のレール

中田千鶴子



消えた街の顔

夏の終わりに雲間から射す光が、富山市の中心を流れる松川の水面を照らす。兩岸の桜並木の深緑と溶け合った流れの美しさが、夏の疲れを洗い流してくれる。折々に姿を変える季節の風物詩。その借景が楽しめるマンションを選んで35年になる。

昭和50年代初めの富山は、分譲マンションの走りであった。東京と富山の賃貸アパートを往復しながら仕事を続けていた頃、9階建て36世帯という事と、周囲のロケーションの良さに魅せられ、先々の事はなんとかなると両親にも相談せず、思い切って購入を決断。フリーランサーの私はまだ40代半ば、人生三度目の冒険であった。

周囲は空き地も多く、建物が増える事は承知の上での選択であった。昭和55年5月5日、新居での人生の新たなレール作りが始まる。

一年が過ぎた頃から周囲は建築ラッシュが始まり、いつの間にか高層ビルが立ち並ぶ。朝夕眺めた立山連峰も、近くの富山県庁も、私の部屋のベランダから見えなくなった。

仕事を兼ねた住居を選んだ理由のひとつが、富山市立図書館の存在だった。すっかり馴染んだ建物が、平成27年

5月、オープンから49年をもって閉館となった。その年の8月、繁華街にあったデパート跡に、ガラス張り9階建てのビル“キラリ”の名称で街のシンボルとして姿を見せる。2～6階がガラス美術館、3～5階が図書館としてオープン。ガラス張りのエレベーターに、中央のエスカレーターが目を引き近代的な図書館として話題を集めた。

39年間、我が家の庭のように通った旧図書館は、人影もなく、灯りが消えて4年余り。平成30年9月末から始まった解体工事が、来年1月24日まで続く。日曜を除く早朝8時から17時まで、騒音、振動、粉塵が漂う光景に変わる。慣れ親しんだ建物が、毎日に削り取られていく。その破壊音が部屋に伝わる。安らぎと温もり、知的な喜びを与えてもらい、親しみ馴染んだ街の顔。令和を迎えたばかりの5月初旬に、とうとう姿が消えた。

『空間は人間が変わる。建物は中の人間が受け手の空間で変わる』——誰の言葉だったか、私の図書日誌に記している。人は新しいとか、古いとか区別したが。それはひとつの見方に過ぎない。時代を越えて、いつの時代でも心打つものに惹かれる。

私が生まれた年に誕生した“富山県庁”と“富山電気ビル”は、富山大空襲で焼け野が原となっても、戦災で残った奇跡のビル。日頃の手入れも加わり、今がある。歳月を経ても、“いいものはいい”と思えるものに包まれている。



我が家のベランダから見える旧図書館

読書ライフ

Dデパート7階にあるワンフロアの書店通いが楽しみのひとつ。夜の8時まで営業とあって、つい足が向く。ゆっくり読めると思うから、いつの間にか本棚に眠らせてしまう。その点、図書館の本は返却日を守らなければならないので、一気に読み終える習慣が身についていた。手元にない図書に出会える楽しみは捨てがたい。旧図書館時代の図書ノートを取り出してみる。好きな作家のひとり、曾野綾子さんの著書『引退しない人生』（2008.9.15 海竜社）の一節。

——不幸という得難い私有財産、どんな人間も過去の不幸な記憶を持つなら、それを自分だけの財産か、肥料にして、しっかり自分の中で使えた人は作家にもなれるし、どんな職業にも就ける。（80頁）

——人は後悔と共に生きる。諦めることだ。できること、できないことがある。体力、気力の限度がある。そんなことは、若い時には考えなかったものだ。（81頁）

他に『人にしばられず自分を縛らない生き方』（2008.12.20 扶桑社）など、自分にはない感性の価値軸となるような栄養源を頂いたような気がする。

かつて仕事を通してお逢いし、女性の生き方について話し合った事もある、今は亡き俵萌子さんの著書『人生、捨てたもんやない』（2009.3.18 海竜社）では、人格に裏打ちされた品格のある味わい深い文章や、知らない事に触れ、人の数ほど人生がある面白さに心が大きく膨らむ。人に目を向け、複眼でものを見るいい会話、いい文章は人間愛がベースにあるからだろうか。

平成9年に開局した北日本新聞社のコミュニティラジオでの仕事では、外国の有名俳優や歌手の自伝を調べて放送に役立てるなど、大いに活用させて頂いた時もあった。

図書館通いに熱中した時期は、通り過ぎたと思っていたのだろうか。旧図書館時代の温かく人間味漂うひとときは捨てがたい。

時代が進み、ハイテク機能へと変化する日々。デジタルよりアナログに心安まる私にとって、印刷の匂いのする一頁一頁を開きながら、活字と向き合う時間がもっとも贅沢なひとときでもある。

つながり

旧図書館の建物が消えてから、富山城跡公園の緑が一際深く、空の広さとともに視界も変わる。空が毎日違う表情を見せるように、時は流れて行く。その流れの速さは、物や人との出会いも同じように重なる。

いつの日か消えていく自分の事を、ふと、考える。数年前、後期高齢者のレッテルを頂いてから、健康に用心深くなっている。連日の解体工事による騒音と、長かった猛暑の故か、体調のすぐれない日が続いた。新陳代謝を繰り返している身体の事を気にかける夏であった。時間は止まってくれない。後悔の多い時期もあった。大地に根を下ろした生き方を望みながらも、理想と現実はなかなか同居しない。社会のつながりの中で、自分という存在を確認しながらの日々を送ってきた。どれだけ必要とされ、役に立っているのだろうか。年を重ねた今、つながりにこだわり過ぎるのも考えものだと思うと、執着が遠のいていく。

ナレーションの仕事で半世紀余りお手伝いさせて頂いているクラシックバレエリサイタル。来年の秋には50回記念を迎える。好きなバレエ用語で“飛躍”を意味する“グラン・ジュテ”（仏語）、音の響きがいい。それを望めない年代になったけれど、心の若さを失わずに、自分の好きな事を楽しむように時間を使っていきたい。どんな人生模様が待っているのか、私のレール作りはもう少し続きそうだ。

プロフィール 中田千鶴子

草創期の民放ラジオ、テレビのアナウンサーを経て独立。東京・富山で活動。

昭和48（1973）年より独自の和紙染色と花絵の創作をはじめ。

昭和52（1977）年～平成25（2013）年まで、音読教室と和紙花絵教室を続ける。

平成6（1994）年開講の北日本新聞カルチャー教室講師。

富山特産サクラマスの過去、現在、未来

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 所長 田子泰彦

1. 富山特産「マス鮓」

富山特産と言えはたくさんの品物があるのだろうが、県内外を問わず、まず「マス鮓」を思い浮かべる人が多いのではなかろうか。「マス鮓といえば富山」と言うくらいに、マス鮓は富山の特産として認知されている(図1)。これには、駅弁として売られているマス鮓が大きく役立っているように思える。



図1 富山市内の店で売られているマス鮓。
駅弁としても根強い人気がある。

神通川では江戸時代からマス流し網漁が行われていたので、マス鮓も江戸時代からあったと思われる。ただ、8代将軍吉宗侯に献上したとされる鮓は、当時の食品の保存能力からして、作成期間が1~2日の押し鮓の「マス鮓」ではなく、作成期間が40日以上と長く、発酵食品で保存の効く「アユの熟れ鮓」だったと考えるのが妥当である。

マス鮓は明治時代に全国的な鉄道網の発達と冷蔵設備の普及により、駅弁としての地位を確立し、現在に至っている。見栄えがよく、香りのよい押し鮓のマス鮓は現代人の嗜好とマッチし、高い人気を維持しているが、見栄えが悪く、癖のある匂いがするアユの熟れ鮓は、次第に敬遠されるようになり、廃れていった。

富山市内にはマス鮓店は20店舗ほど、県全体では30店舗ほどあるとされ、それなりに営業が続いていることから、マス鮓の人気には今も根強いものがある。ただ、神通川だけでなく、全国のサクラマスの漁獲量をみても、それらの鮓を補える量が獲れてないので、多くは国内外のサクラマスと同じサケ属に分類される魚種を使ってい

るものと推測される。

幸運なことに、神通川で獲れたサクラマスを材料にして川漁師が作ってくれたマス鮓を、私は何度か食べさせていただく機会に恵まれた。その鮓は、独特のタレ(酢醤油)に浸されたマスの身に、近くの山で自生していた熊笹、それにコシヒカリと、朱、緑、白のコントラストに包まれ、とても見栄えが良かった。一口食べるとマスの美味さが口の中に広がり、また、数切れも食べるとおなが一杯になる、本当に美味しい一品だった(図2)。



図2 神通川のサクラマスで作ったマス鮓。
コシヒカリの白、マスの朱、熊笹の緑のコントラストも綺麗だ。

2. 神通川のサクラマスの生活史

サクラマスは10月頃に河川の上流域、つまり山間部にある支流の溪流で産卵する(図3)。現在では、神通川支流の熊野川および支流井田川上流の溪流域である。水当たりの良い所に掘られた産卵床の小砂利の中で、稚魚(子供)は冬に孵化する。孵化しても稚魚は小砂利の中に留まり、卵囊に蓄えられた養分を使いながら、じっと春を待つ。

春になると、稚魚は水面近くに浮上してきて、岸近くの緩みに生息するようになる。それから約1年間、川での生活が始まる。川での幼魚は一般的にヤマメと呼ばれている。稚魚たちは春の出水とともに下流域に広く分散していく。河川では主に水生昆虫を食べて成長する。夏になると、神通川や庄川では、アユに混じってサクラマスの幼魚(ヤマメ)が投網などに入るのがよく見られる。

産卵から約1年半後の春になると、幼魚のうち雌の大部分と雄の一部（雌雄合わせて約60%）が海（富山湾）に降っていく。降海していく幼魚はスモルト（体重20～30g）と呼ばれ、体色は成魚と同じく銀色になっている。なお、雄の多くはヤマメとして、引き続き河川に残る（図3）。

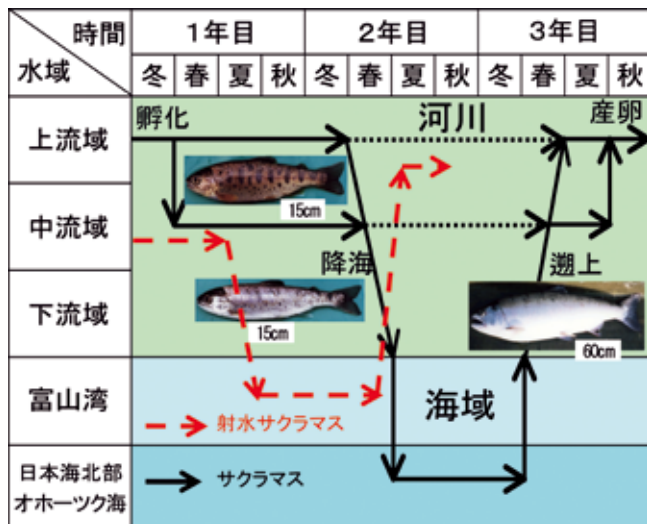


図3 神通川のサクラマスの生活史の概念図

富山湾に降った幼魚は、オホーツク海までの大回遊を行う。海域では主にアミ類や魚類を食べる。1年後の春、幼魚は生まれた川（神通川）に、海に降った時の約100倍の体重（2～3kg）になって戻って来る（図3）。放流魚の例で言うと、海に降った幼魚がサクラマスとして生まれた川に帰って来る数は、千匹のうち2、3匹である。春、川で見られるサクラマスはエリート中のエリートなのである。



川では流し網漁（神通川ではほとんど見られなくなった）、投網漁、ルアー釣りなどで漁獲される（図4）。最近では、網漁よりもルアー釣りの漁獲量の方が多いになっている。

図4 庄川でルアー釣りにより釣られたサクラマス。最近はこの川もサクラマスのルアー釣りが盛んだ。

川に入ったサクラマスは大きな淵で滞留しながら、少しずつ、産卵場に近い上流域を目指していく。サクラマスは川に入ると、ほとんど何も食べなくなってしまう。このことを、川漁師でも信じようとならない人がいるが、河川に遡上した後のサクラマスの胃袋を調べてみると、ほとんどが空で、胃そのものが収縮して小さくなっている。

では、何故ルアーで釣れるのかとよく聞かれるが、サクラマスやサケには「噛み付き行為」という性質があって、目の前をフラフラするものがあると、本能的に銜えてしまうのである。餌（食欲）というより、誘惑（ルアー）されたものに飛び付いたというのが実際のところだろう。

また、何も食べなくて大丈夫なのかと聞かれることもあるが、川に入って3kgもの体重を維持しようとすると、毎日、海と同じように相当の餌を食べなければならない。しかし、川には海のように餌は豊富ではないのでそれは無理である。とすれば、食べないで代謝を鎮め、淵でじっとしている方が体重は維持できる。実際、3kgサイズの魚では、秋までの約半年の間に体重が500gほど減少することが明らかになっている。

逆に言うと、サクラマスは夏を乗り越えるだけの栄養分を海で蓄えて川に遡上してきている訳で、絶食により不要な脂分が抜け、洗練された脂肪分だけが蓄積された川のサクラマスは、極めて美味なものとなっている。寄生虫の影響を防ぐために漁獲したサクラマスは一旦冷凍する必要がある。しかし、鮮度管理技術が発達した今日では、漁獲後、素早く冷凍したサクラマスを、ゆっくり解凍して、サクラマスの握りや刺身として食べることが可能になった。その口の中に溶け込んでいく、まさにとろけるような脂の美味しさは、マグロのトロにも勝るとも劣らない、まさに絶品中の絶品と言えよう（図5）。



図5 神通川のサクラマスで作った握りと刺身。鮮度保持技術の発達で、絶品になった!?

大きな淵で夏を過ごしたサクラマスは、秋には出水などを利用して上流域の産卵場に到達し、サクラマス同士またはサクラマス（雌）と河川に残留したヤマメ（雄）がペアとなって産卵を行う。産卵後、サクラマスはダイナミックな3年間の生涯を閉じる（図3）。

3. サクラマス資源の激減

神通川のサクラマスの漁獲量は、明治、大正時代には160トンを超えることもあったが、平成に入る頃には1トン前後にまで減少してしまった(図6)。

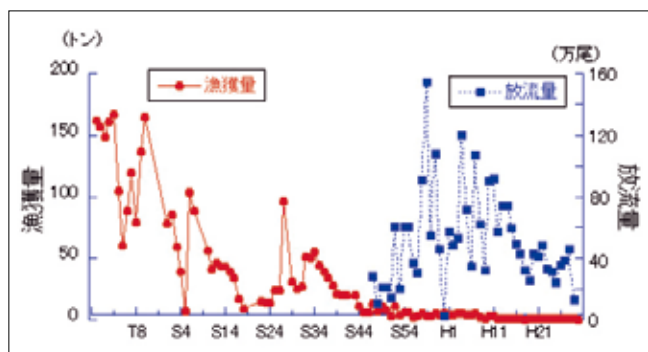


図6 神通川のサクラマスの漁獲量と放流量の経年変化

この大きな要因はダムの建設に伴うサクラマスの遡上範囲の減少にある。ダムのなかった頃と比べると、現在の遡上範囲は、神通川では17.1%、庄川では9.4%に激減している(図7、表1)。サクラマスの漁獲量と遡上範囲との間には統計学的に有意な相関関係も認められている。先に記したように、サクラマスは山間部の渓流域で産卵し、稚魚もそこで育つ。ダムの建設により、神通川や庄川では、サクラマスの産卵場と稚魚の成育場の多くが失われ、資源が激減したと推定される。

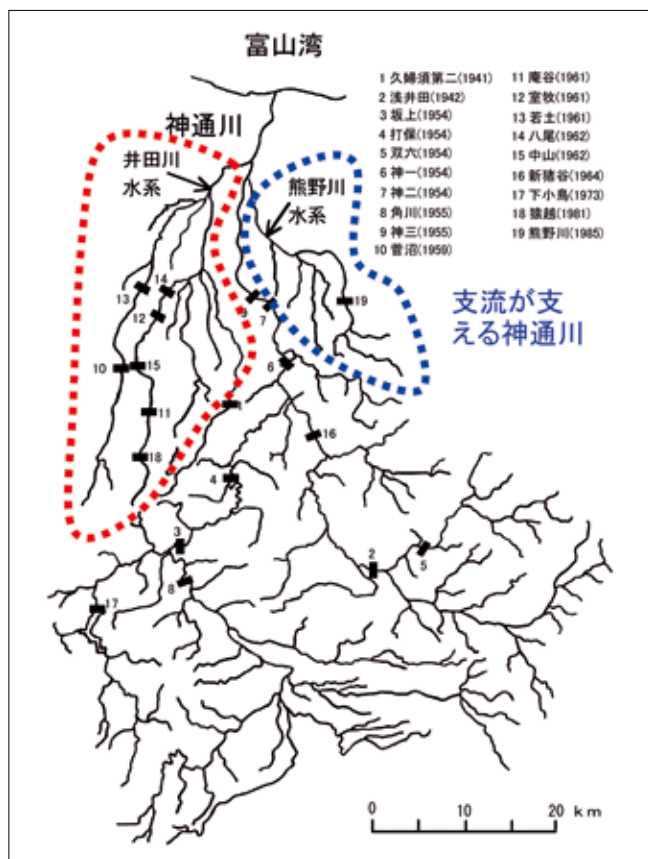


図7 神通川水系のダムの位置図と設置年

年	ダム名	遡上可能距離 (km)	遡上可能割合 (%)
1940	ダムの存在なし	1083.4	100.0
1941	久保田第二 (1)	1065.2	98.3
1942	浅井田 (2)	884.6	81.7
1954	神二 (7)	263.8	24.3
1955	神三 (9)	261.6	24.1
1959	菅沼 (10)	241.6	22.3
1961	室牧 (12)		
	若土 (13)	208.6	19.3
1962	八尾 (14)	205.8	19.0
1985	熊野川 (19)	185.0	17.1

表1 神通川でのサクラマスの遡上可能距離と割合の変化

ダムは治水や利水などにおいて、社会に大きく貢献しているのは周知の事実である。しかし、一方でダムは上流からの玉石、砂利、土砂の流下を遮り、ダムの湖底に留めてしまうとともに、森(山)からの栄養塩類の一部を湖底に沈めて滞留させ、変質させてしまう。

また、下流から遡上してきたサクラマスやアユなどの遡河性魚類の遡上を阻み、サクラマスの多くは産卵場に到達できなくなった。ダムで玉石や砂利、土砂が堰き止められることによって、ダムより下流の河川漁場では河床が低下し、沿岸では砂浜の衰退が引き起こされ、河川漁業や沿岸漁業に悪い影響をもたらしている。このように、ダムの建設は、少なくとも水産業にとってはマイナスの面が大きい。

この他、流入する土砂等で時間の経過とともにダム湖が埋まることや、コンクリート製のダム堰堤の耐用年数がどのくらいなのかという問題もある。これらや水産業に及ぼす負の側面の問題が、天才的な河川工学者の出現によって解決されることを強く望んでいる。

4. サクラマス資源回復への試み

ダムの建設によって、最下流に位置するダムから下流に限定されたサクラマスの漁場では、低水護岸や砂利採取などの河川工事により、川の蛇行幅が小さくなり、また、川の流れも中央部に位置するようになった。これにより、サクラマスの重要な越夏場所であった淵の減少や淵の規模が小さくなるという現象が引き起こされた。結果的に、平瀬が続く単調な形状が多くを占めるようになった。これらの河川環境の変化も、サクラマス資源の減少に繋がっている。

神通川でのサクラマスの漁業権を有する富山漁協では、昭和40年代から神通川でサクラマス稚魚の放流を行ってきた。富山県も昭和50年代後半から、幼魚の試験放流を試みてきたが、サクラマス資源は減少の一途を辿り、その漁獲量は現在では1トン前後で推移している(図6)。3年の生涯のうち河川で2年半を過ごすサクラマス

は、「河川環境の鏡」とも言われており、稚魚の放流だけでは資源は増えず、河川環境を改善しないとサクラマスは増えないことが明確になった。

幸いなことに、最近、国交省は神通川でのサクラマスの生息環境の改善に力を注いでおり、サクラマスの越冬場所である淵の造成や幼魚の越冬場所の整備などを実施してきている。これらに加え、森（山）と海の結びつきがまだ少しは保たれている支流の熊野川水系や井田川水系において（図7）、堰堤等に効率の良い魚道等が整備され、遡上環境が良くなれば、神通川のサクラマス資源も少しは回復するものと期待される。

5. 時代はサーモン養殖へ

日本人が今、一番好んで食べる魚は、マグロではなく、サーモン（サケ・マス類）である。日本人は年間約40万トンの大量のサーモンを消費している。しかし、その約6割はノルウェーやチリで養殖された外国産のサーモンである。

最近、日本の各地でサーモン養殖が盛んに行われるようになり、現在では100種（箇所）を超えるご当地サーモンがあるとされる。しかし、その多くはニジマス、ギンザケなどで、サクラマスを対象としているのはまだ少数である。日本人のサーモンの消費量と輸入物の多さを考えると、ご当地サーモンの量はまだ微々たるもので、輸入物に取って代わる余地は十分にある。これからも、ますます国内でのサーモン養殖は盛んになると予測される。

6. 射水サクラマスの誕生

平成27年秋。大門漁協の増殖場にて、私と大門漁協の役員、近畿大学の担当者で、海水で育成した2年成熟のサクラマスの人工授精に成功した。これが実質上の射水サクラマスの誕生であった。孵化した稚魚の成長は目覚しく、孵化翌年の6月には体重は50g（神通川の稚魚では約5g）ほどにもなり、スモルト（海水に適応できる魚）率は100%（神通川の幼魚では約60%）に近かった。2年成熟のうえ、ほとんどの魚が海水で飼育できる！まさに養殖にうってつけのサクラマスの系統だった（図3、図8）。

現在、射水市では、大門漁協の増殖場において、淡水で育成した幼魚（200gサイズ）を11月頃に堀岡養殖漁協の飼育池に搬送し、同飼育池で海水により翌年の3～6月まで育成して、1～2kgサイズで出荷している。陸上飼育なので、生食が可能（天然物にはアニサキスなどの寄生の恐れがあるため、一度は凍結する必要がある）なため、そのまま刺身や握りとして使えることから、1kgサイズでも価格は高い。

この他、入善町でも近畿大学と入善漁協でサクラマスの陸上飼育を行っている。射水市地先では、私も育成技術の指導等で深くかかわったサクラマスの海面養殖も始まった（図9）。



図8 射水市役所でのサクラマスの陸上、海中養殖試験魚の食味検査。



図9 射水市地先の海上で始まったサクラマスの海中養殖試験。

射水サクラマス系統は淡水のままでも、2年で1～2kgサイズには成長するので、サケ・マスの飼育池を有する内水面の増殖場およびアユやイワナの養殖場でもサクラマスの養殖が可能である。このため、近隣の温泉街、例えば、庄川温泉、春日温泉、宇奈月温泉などに淡水養殖のサクラマスを提供し、地域振興に貢献できることも現実味を帯びてきた。このように、養殖に関しては、サクラマスの未来は明るいものがある。

天然の貴重な資源である神通川のサクラマスに関しては、漁獲量を現在の数倍の2～3トン規模にすることは可能であろう。サクラマス養殖は、陸上海水養殖、富山湾での海面養殖、内水面の淡水養殖を合わせると、近い将来でも100トンほどは可能だと考えられる。

サクラマスは江戸時代から「富山の特産」である。長い歴史的な背景に支えられたブランド品として、「天然物」と「養殖物」を両輪に、サクラマスがこれからも、水産業のみならず、加工業や観光業も力強く牽引してくれることを切に願っている。

今年の8月22日・23日の2日間、中国大連の中心街から自動車ですべ90分程の海沿いの観光地でリゾート開発が進んでいる地域「金石灘(きんせきたん)」で“2019年「魯花杯(Luhua Cup)」中国料理世界選手権”が開催されました。

この大会が料理界でどのような位置付けになっているかは定かではありませんが、日本代表の一員に弊社の企業グループである「新潟グランドホテル」の小田中国料理長が選ばれ参加する事となり、応援も兼ねて久しぶりに大連に行って来ました。(添乗員として)

日本と近隣諸国との関係が厳しい中ではありますが、様々な交流を通じて改善される事を祈願いたします。そこで今回は、中国料理世界選手権と大連観光を取り上げてみました。

世界選手権

中国料理世界選手権は様々な規則がありますが、簡単に言えば、5時間で30名分の中国料理のフルコースを作る大会です。味だけではなく、創造性や独創性、キッチンの清掃なども審査対象となる総合的な料理コンテストです。

海沿いにあるフードコートが会場の為、厨房は狭く、応援する観客設備も無く大変苦勞致しました。22チームが参加した大会で、日本チームは銀賞を取ることが出来ました。応援した甲斐がありました。



日本チーム 左から3番目が小田中国料理長、その右隣が監督(女性)



日本チームの厨房

盛り付けと小田中国料理長のデザート作品



旧ロシア人街

大連市内と旅順

大連に来たら必ず見て頂きたい場所は、「中山広場(ちゅうざんひろば)」でしょう。時間があれば、徒歩での散策をお勧め致します。

戦前、日本人が多く住んでいた大連は、戦前の建築物が多く残っています。例えば、大連鉄道有限責任公司(旧満鉄本社ビル)、大連賓館(旧ヤマトホテル)、中国銀行(旧横浜正金銀行)、大連市人民政府(旧関東州庁)、大連市司法局(旧高等法院)など、多くの貴重な建物があります。また、旧ロシア人街や旧日本人街などもあり、様々な歴史的建築物も多くある大連です。

中国貿易の窓口である大連は、現在でも多くの日本企業や日本人が住んでおります。近代化も進み、高層マンションも多く建設されております。

大連中心街から自動車で70分程西へ行きますと、観光地である「旅順（りょじゅん）」があります。旅順は、「坂の上の雲（司馬遼太郎：著）」でも描かれた「203高地」や「東鶏冠山」、「白玉山（旅順港眺望）」など、多くの観光地があります。



旅順港 白玉山からの眺望



星海公園から見た大連中心地



大連駅前



203高地の碑



山頂の記念碑



東鶏冠山



餃子専門店「大連花餃子」



大連で1番人気の海鮮料理店「万宝海鮮航」

大連の食事

大連は、中国の東北部遼寧省の1都市なので、料理も中国東北料理が中心です。最も有名な料理は「餃子料理」です。日本と違い「水餃子」、「蒸し餃子」が中心で、焼餃子は前日に残った餃子を焼いて食べる程度です。

そのほかには「火鍋」や、海が近いので「海鮮料理」も東北地方の料理と言えます。遼寧省の地域柄、北朝鮮料理やロシア料理も楽しめる「食の地域」と言えます。



火鍋屋さんの売店「松茸」



火鍋（マイルド）

遼寧省満喫ツアー

今回は、富山空港から大連直行の中国南方航空を利用して3泊4日で訪れましたが、富山空港からの直行便を利用すれば、大連・丹東・瀋陽を回るツアーが可能です。新潟空港からは哈爾濱への直行便を利用すれば、哈爾濱・瀋陽・丹東・大連を回るツアーも可能です。旧満州を訪ねるツアーは、如何でしょうか？ 合わせて新潟グランドホテルの中国料理もお試ください。

2019年度 建設コンサルタンツ協会北陸支部 業務・研究発表会

〈技術部会 統括技術委員会〉

1. 開催の背景と目的

建設コンサルタントを取り巻く社会情勢の様々な変化を踏まえ、近年では技術者の継続教育（CPD）に対する要請が高まりを見せています。このような情勢を受けて、業務における優れた成果や自主研究開発成果の発表を通じてお互いの技術研鑽を図ることを目的として開催したものであります。

2. 開催概要

（1）対象業務と専門技術分野

建設コンサルタント企業に属する技術者を対象として、平成29、30年度に従事した建設コンサルタンツ協会北陸支部包括区域（新潟県・富山県・石川県）における国・地方自治体等に関する業務・研究発表会を開催しました。

また、専門分野は「河川、砂防及び海岸・海洋」「道

路」「都市計画及び地方計画」「土質及び基礎」「鋼構造及びコンクリート」「トンネル」「建設環境」「防災・減災」「その他」の9部門としました。

（2）選考方法

①第1次審査

平成31年4月初旬から令和元年5月17日までの間で参加者を募集したところ、26編の応募がありました。

審査は北陸支部選考委員会にて新規性、市場性、論理性の観点から厳正なる審査を実施し、8編を選考しました。

②北陸支部業務・研究発表会（第2次審査）

第1次審査で選考された8編を対象として、「北陸支部業務・研究発表会」を新潟市の興和ビル10F会議室にて開催し、当日は約90名の方に聴講頂きました。

発表論文選考結果

テーマ	発表者
冬期事故が多発する交差点における事故対策検討について	開発技建株式会社 交通計画部 ○山崎史紀、石井康之、長谷川 寛、五十嵐 豊、佐藤侑也
斜角の小さな3径間連続PC箱桁橋の支承取替設計	大日本コンサルタント株式会社 北陸支社 新潟事務所 技術部 ○大谷拓矢、登石清隆、西村 治、庭山雄太郎
社会資本の高齢化時代における鋼製枠堰堤の長寿命化対策の一事例と今後の課題	株式会社開発技術コンサルタント 第二技術部 ○布川剛士、矢沢英世、比企和昭
激甚化する水害に備えたハザードマップ等の検討	株式会社日本海コンサルタント 社会事業本部 計画研究室 ○上野朋弥、横山 誠、柳瀬邦治
地方都市の密集市街地における災害危険度判定の新たな評価視点	株式会社国土開発センター 建設コンサルタント本部 環境事業部 環境2部 ○岡田卓也、森川大輔
「交通手段選択モデル」を適用した路線バスルートの最適運行ルート検証	株式会社新日本コンサルタント プロジェクト事業本部 都市計画部 計画系グループ ○大門健一、植原 徹、平野 周
木橋復元設計における3次元レーザースキャナの活用	株式会社国土開発センター 設計事業部 設計1部 ○山田真也、濱田康行、徳田義孝、浦 修造、上田哲平、 白井淳子
現地録音データを用いた猛禽類営巣地の絞り込み	アルスコンサルタンツ株式会社 技術2部 ○星野彰弘、稲葉弘之

（○は発表者を示す）



支部長挨拶



審査委員総評の様子 山田委員



聴講の様子



審査委員総評の様子 峰村委員



業務・研究発表の様子

審査員は、審査委員長として長岡技術科学大学の太塚教授、後援をいただいた国土交通省北陸地方整備局、新潟県から各1名、建設コンサルタンツ協会北陸支部から支部長、技術部会長の計5名で審査を実施しました。

審査は論文、プレゼン等の観点から総合的に評価し、最優秀賞である支部長賞、奨励賞、審査員特別賞の3論文を選考しました。

審査委員氏名	所属
審査委員長 太塚 悟	長岡技術科学大学 工学部 環境社会基盤工学専攻 教授
審査委員 山田幸男	国土交通省 北陸地方整備局 企画部 技術開発調整官
審査委員 峰村 修	新潟県 土木部 技術管理課 工事検査室 室長
審査委員 寺本邦一	(一社) 建設コンサルタンツ協会 北陸支部 支部長
審査委員 渡邊雅樹	(一社) 建設コンサルタンツ協会 北陸支部 技術部会長

(3) 大学との連携

本発表会は、新潟市を会場としたことから新潟大学、長岡技術科学大学を対象に学生講演を依頼しました。

両大学から学生を推薦していただき、業務・研究発表会で発表していただきました。

演題：腐食切れの生じたトラス橋斜材の健全性評価に関する数値解析的検討



発表者：長岡技術科学大学大学院
修士課程 環境社会基盤工学専攻
2年 山本寧音

演題：河川堤防における簡易な信頼性評価手法の提案



発表者：新潟大学大学院
自然科学研究科 環境科学専攻
社会基盤・建築学コース（社会基盤系）
2年 矢沢大夢

また、審査委員長を務めて頂いた長岡技術科学大学の大塚教授からは、審査だけでなく基調講演も行っていました。

演題：地盤工学における観測的施工法の意義



基調講演の様子

3. 審査結果

表彰された3論文・発表者は以下のとおりです。

【支部長賞】

地方都市の密集市街地における災害危険度判定の新たな評価視点に関する一考察



発表者：岡田卓也
株式会社国土開発センター
建設コンサルタント本部
環境事業部 環境2部

【奨励賞】

斜角の小さな3径間連続PC箱桁橋の支承取替設計



発表者：大谷拓矢
大日本コンサルタント株式会社
北陸支社 新潟事務所 技術部

【審査員特別賞】

現地録音データを用いた猛禽類営巣地の絞り込み



発表者：星野彰弘
アルスコンサルタンツ株式会社
技術2部

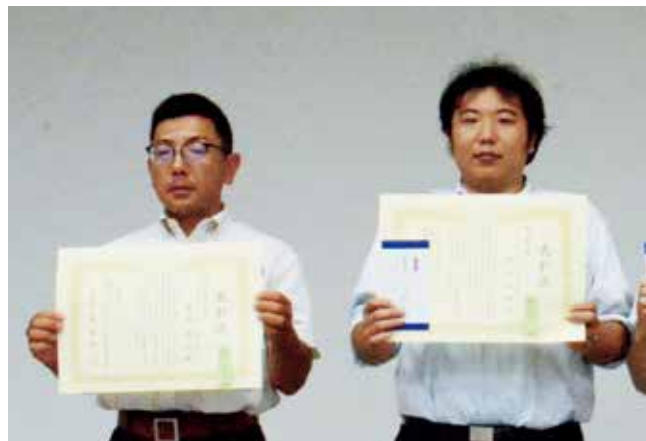
4. おわりに

発表会当日の新潟は、発表者の熱意のような猛暑日でしたが、大勢の方に聴講頂き、盛大に執り行うことができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

また、業務・研究発表会開催にあたり、北陸地方整備局、新潟県、関係大学の皆様、そして北陸支部会員会社から、ご多忙中にもかかわらず、多大なご理解とご協力を頂き、大変ありがとうございました。

来年度も開催する予定となっております。技術研鑽の場として来年度も多くのお応募を期待しております。

今後とも、皆様からのご協力賜りますよう、合わせてお願い申し上げます。



表彰式の様子

社会貢献活動 ふるさと富山美化大作戦実施

〈富山事務所〉

ふるさと富山美化大作戦に参加して

富山市が主催する「令和元年度ふるさと富山美化大作戦」が8月18日（日）に開催され、私は建設コンサルタント協会富山地区会員会社12社21名の方々と共に参加いたしました。

当日は天気がとても良く、朝早くからじりじりと焼けるような暑さでしたが、清掃活動を行いながら汗を流すととても清々しい気持ちになりました。駅周辺には同じく清掃活動に参加している方が多くみられ、自分たちの街をきれいに保つ意識の高さを感じました。

本作戦の趣旨は、様々な企業・団体と市民の皆様が協働して清掃活動を行い、美しい街として全国に誇れる富山を目指して環境美化を推進することです。富山市中心部を幾つかのブロックに分け、各参加団体がそれぞれの担当地区を一斉に清掃します。私たちは、日頃より富山県内の社会インフラ整備に携わる団体（業界）として、また社会貢献活動の一環として参加し、富山駅北東部周辺の清掃を任されました。

駅周辺は人通りも多いため、きれいに見えていてもゴミの多い場所という印象を持っていました。しかし、富山駅周辺は一部の側溝にペットボトルが落ちていましたが、道端に目立つゴミが無く、小さなゴミを見つけて拾うというような感じでした。

私はここに、富山という街がどれだけ愛されているのか実感しました。富山を訪れた観光客の方々のマナーが良いということもありますが、やはり地元の方々の愛情が多いためであることで、これほど街が清潔に保たれているのだと感じることができた清掃活動となりました。また、地元の方に加わり、富山の街の美化に協力できたことをとても嬉しく思いました。

このような人々から愛される街づくりができる建設コンサルタントは、素晴らしい職業だと感じます。その上で、働き方改革と称した担い手の確保、若手技術者の育成、労働環境の整備・改善に取り組む必要があることも認識しなければいけません。

協会についてより広く認知してもらえるよう、今回の清掃活動では全員がJCCAのTシャツを着用しました。

協会のホームページやFacebookなどのSNSを通じ、建設コンサルタントが担う仕事内容や役割を紹介する動画「教えて！ケンコンさん」や、県内大学のオープンキャンパスへの出展などの広報活動をこれまで以上に多く実施し、建設コンサルタント業をより多くの方に認識してもらえるように今後も活動していくことが重要だと思います。



お知らせ

令和元年度
おやこ見学会

〈広報部会〉

令和元年8月24日（土）建設コンサルタンツ協会北陸支部主催「おやこ見学会」を小・中学生を対象に開催しました。社会貢献事業の一環として、毎年、萬代橋誕生祭と同一日に開催しており、建設コンサルタントを少しでも知ってもらう機会とするとともに、将来建設関連の仕事を目指すことが選択肢の一つになってもらえるような副次的効果に期待しながら、取り組みました。

〈概要〉

日 時：令和元年8月24日（土） 9：00～12：00

場 所：信濃川、万代クロッシング、万代テラス

参加者：9組23名（子ども14名、保護者9名）

共 催：北陸地方整備局信濃川下流河川事務所
北陸地方整備局新潟国道事務所
新潟市まちづくり推進課

後 援：新潟県

新潟商工会議所

新潟日報社

ミズベリングやすらぎ堤研究会

〈スケジュール〉

9：00 集合（ばんだい丸発着所前広場）

・挨拶 ・本日のスケジュールなどを説明

9：10 乗船開始

9：15 出港（ばんだい丸にて信濃川周遊）

・建設コンサルタントの仕事
・信濃川から見た萬代橋
やすらぎ堤の役割や生息する生き物など

10：05 下船（徒歩にて移動）

10：30 万代クロッシングにて

・まちづくりやミズベリングの取組など
・液状化の説明と実験

11：05 万代テラスに向けて出発

11：15 万代テラスにて

・萬代橋の説明と降雨体験

12：00 終了（万代テラスにて解散）

参加内容・申し込み状況

周知方法は、例年同様、市報にいがたへの告知文掲載をメインとしたものの、併せて新潟市役所本庁、区役所、公民館、図書館でのチラシ配布、支部HPによる情報発信も行いました。

今年は、市報にいがたへの早期の掲載もあって、定員25名に対し47組110名の申し込みがありました。厳正な抽選の結果、10組25名が決定しました（前日までに1組2名の辞退があり、9組23名となりました）。

見学の様子

天候にも恵まれ、9組23名の参加者で開催しました。乗船前に寺本支部長から「社会資本と建設コンサルタントを身近なものとして親しみをもって大いに楽しんでほしい」との挨拶の後、佐々木部会長から乗船にあたっての留意点などの説明があり、屋形船「ばんだい丸」に乗船しました。



ばんだい丸に乗船

船内では熊倉広報委員長から、建設コンサルタントの仕事内容を「教えて！ケンコンさん」の動画とともに紹介しました。その後、北陸地方整備局信濃川下流河川事務所の青木技官からやすらぎ堤の役割、信濃川に生息する生物、新潟地震の痕跡を昭和大橋や八千代橋で確認するなど、聞くだけでなく、視覚的にもわかりやすく説明いただきました。子どもたちは、佐渡汽船の出港や浚渫船の作業を近くで見ることができ、熱心にカメラを向けたり、すれ違う船に手を振ったりしていました。



信濃川の治水・利水・環境に関する説明

「ばんだい丸」による信濃川周遊が終わった後、記念撮影をしてから、船から見ていた萬代橋を歩いて萬代クロッシングまで移動しました。

萬代クロッシングでは、新潟市まちづくり推進課の佐々木係長から、新潟市が行っているまちづくりやミズベリングの取組の説明をしてもらいました。

北陸支部からは、土粒子の間隙比に関してビー玉等を用いた実験をし、さらに液状化の際、杭がある場合とない場合における構造物（家屋等）への影響の違いについて、模型等を用いて実験しました。この実験には子どもたちも興味を持って参加してもらうことができました。



新潟市の取組に関する説明



積極的に参加する子どもたち

続いて、萬代テラスまで歩いて移動し、国土交通省新潟国道事務所の横山技官からパネルを用いながら萬代橋の説明をしてもらいました。その後、子どもたちには降雨体験車に乗ってもらい、経験したことのない大雨に驚きながらも楽しく体験をしてもらいました。



降雨体験

降雨体験終了後、寺本支部長より閉会の挨拶を頂き、参加者全員にアンケートを実施いたしました。全体的に「よかった」という結果が得られた事から、この取り組みが参加者にとって思い出に残るものであったのではないかと感じております。

今後も建設コンサルタントへの理解を促がし、さらには将来の担い手確保につながる場の一つとして、「おやこ見学会」を継続して取り組んでいきたいと思っています。

今年度も盛況の中事故もなく、すべての予定を無事終了することができました。

本見学会開催にあたり、北陸地方整備局信濃川下流河川事務所、同新潟国道事務所、新潟市まちづくり推進課、ばんだい丸など、多くの皆様に多大なるご協力をいただきました。大変ありがとうございました。感謝申し上げます。



みんなで記念写真

お知らせ

令和元年度
北陸支部防災演習の結果

〈災害対策部会 総務委員会〉

今年度の防災演習は、午前は北陸支部（以下、支部と略す。）、午後は建コン協本部（以下、本部と略す。）による取り組みを行いました。

支部演習は初動時の情報伝達が適切に実施できるかを確認する、本部演習は本部と支部との連絡・伝達網が正常に機能できるか否かを確認するために取り組みました。

北陸支部の演習は、新潟、富山、石川の3地区でそれぞれ実施し、このうち新潟地区では新潟県、新潟市などの関係機関とも連携して行いました。

日時：令和元年9月2日（月） 8：40～11：50

場所：新潟地区 興和ビル10階会議室
富山地区 富山地区事務所
石川地区 石川地区事務所

新潟地区で連携した関係機関：

新潟県新潟地域振興局地域整備部、新潟市土木部土木総務課、北陸地質調査業協会、（一社）全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会

新潟地区参集者：

災害対策部会（寺本支部長、大平副支部長、高橋技術総括指揮者、坂上副責任者、青木災害対策委員）、坂上運営委員長、総務委員会（清原委員長、佐藤（雄）委員、浜辺委員、今野委員）、佐々木事務局長



新潟地区参集の様子

1. プログラムと訓練のポイント

新潟地区での取り組みは以下のとおりです（富山・石川地区は、右記プログラムのアンダーラインで示した箇所以外は新潟地区と同様に実施）。

【今回初めて実施した演習内容】

- ①災害発生に備えて、支部会員会社でどの程度の技術者を動員できるか本演習に先立って把握するプロセスを取り入れた。
- ②新潟県新潟地域振興局から具体的な応援要請を受け、対応会社を選定する訓練を実施した。
- ③災害協定を締結している市のうち、今回初めて新潟市と連携して実施した。

- (6:00 新潟県南西沖でM7.7の地震発生)
- 8:40 技術総括指揮者に支援要請があったと仮定して高橋技術総括指揮者・青木災害対策委員で対応確認
- 8:45 支部長に、北陸支部への参集の必要性について確認、要請内容を確認するためリエゾンによる派遣を報告
- 8:50 関係者への支部参集連絡
- 9:30 現地本部設置に関する協議・リエゾンからの情報を共有
- 9:40 「災害対策現地本部」を設置
- ①関係機関へメールと電話による報告
- ②支部会員会社への災害対策現地本部設置のお知らせと会社の被害確認、調査派遣対応の確認をメール・FAXにて実施
- 10:00 新潟地域振興局から協定に基づいた支援要請が届く
現地本部で要請内容を報告
- 10:40 1時間以内の返信状況を支部長に報告
支援要請に基づいた対応会社の検討
- 11:00 技術総括指揮者から新潟地域振興局に対応会社を報告
- 11:40 2時間以内の返信状況を支部長に報告
- 【災害発生より90日経過を想定 令和元年12月1日】
- 11:50 災害対策現地本部の解散（支部訓練の終了）
関係機関へメール・電話による報告



リエゾン派遣の様子

2. 演習の結果

(1) 返信状況について

現地本部設置報告と支援可能人員等の確認は、会員会社からの返信は1時間以内での回答を求めて実施しました。今年度は、61社中、1時間以内返信は50社(92%)、2時間以内返信は計60社(98%)と、昨年度に比べて少し劣る結果でした。

	対象会社	手段	返信時間別の状況		小計	合計
			1時間以内	1時間を超え2時間以内		
新潟地区	42	メール	31	8	39	42
		FAX	2	1	3	
富山地区	12	メール	10	1	11	11
		FAX	0	0	0	
石川地区	7	メール	7	0	7	7
		FAX	0	0	0	
合計 [返信率]	61	-	50 [92%]	10	60 [98%]	

※平成30年は、63社中、1時間以内返信は58社(92%)
2時間以内返信は計63社(100%)。

(2) 昨年度演習で上手くいかなかった点について

①様式-3への記載について

1時間以内に返信を求めた「様式-3」では、今年度は記載内容について問題はなかった。また、会員会社からメール送付する際の件名や添付したファイル名は、不適切な記載は昨年と比べて少し改善された。

	新潟地区	富山地区	石川地区
メール件名が不適切	13社(19社)	1社(2社)	0社(2社)
ファイル名が不適切	2社(12社)	0社(0社)	0社(1社)

※()は平成30年度を示す。

②災害担当責任者(正)、(副)からの返信について

(正)、(副)は、調整のうえ、どちらかからの返信としたが、両者から届いた会社が1社あった。また、(正)、(副)からは適切に対応してもらったが、同じ会社の別の方からも連絡が届いたという状況が1社あった。

	新潟地区	富山地区	石川地区
両者から同じ内容が届いた	0社(0社)	0社(1社)	0社(0社)
両者から違う内容が届いた	1社(1社)	0社(0社)	0社(0社)

※()は平成30年度を示す。

3. まとめ

【事務局】

①昨年度の演習で上手くいかなかった点は少しではあるが改善された。しかし、メール件名の記載方法などは、依然として多くの会社が不適切な記載であったため、記載方法の変更等を検討する必要がある。

②様式-3をメールで事務局に返信する際、窓口である3人全員に返信するようにしていた地区では、返信にバラつきが生じた。そのため、当該地区では返信窓口の1本化を行う必要がある。

③新潟地区では、今年度もWi-Fiをレンタルして取り組んだ。今後は、通信環境やコピー機の調達など、万一来備えた機材の対応について検討する必要があると思われる。

【支部会員会社】

①(正)、(副)が不在の場合、FAXが届いてもそのままにされる場合があった。そのため、各社で(正)、(副)が不在の場合のルール等を決めることが必要と思われる。

②様式-3をメールで返信する際、パスワード付で送ってくる会社が多かった。セキュリティ対策上、やむを得ないと考えるが災害時は開封のしやすさに配慮したパスワード設定無しによる対応をお願いしたい。

【関係機関との連携】

新潟地区では、新潟県新潟地域振興局地域整備部からの支援要請を受け、内容の把握、対応会社の検討・報告を行った。今後もこのような実践的な演習を試みる事が重要であると考え。また、北陸地方整備局防災室と連携した演習は九州災害派遣のため実施できなかった。来年度は、可能であれば改めて連携した演習を実施したいと考える。

4. 総評

演習後、寺本支部長から「気候変動等の影響により各地で災害が頻発している。災害が発生した場合は初動時対応が重要であることから、今後も関係機関との連携や実践的な演習に取り組んでいくことが重要である。」という総評がありました。



演習の総評を伝える寺本支部長

最後になりましたが、新潟県新潟地域振興局地域整備部、新潟市土木部土木総務課、北陸地質調査業協会、(一社)全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会、そして実施できませんでしたが北陸地方整備局防災室の皆様にご協力を頂き無事終了することができましたこと、本誌面をお借りして感謝申し上げます。

気分もリセット 体もリセット

こんにちは、
日本エステティック協会
認定エステティシヤンの
宮崎夏海が
日々を健やかに過ごすための
ワンポイントをお教えます。
今回は…

〈首こり・肩こりケア〉

温める

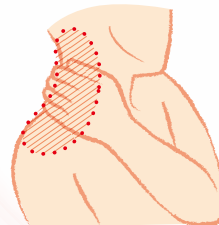
肩甲骨の間にカイロを貼って温めたり、
寒い季節はハイネックのトップスやマフラー
をおしゃれに取り入れるのもいいですね♪

首や肩の冷えて眠れないときは、ネック
ウォーマーがおすすめです。
眠りの質が上がりますよ。



揉みほぐす

- ① 盆の窪(ほんのくぼ)を中心に、首筋の髪
の生え際を押す。
- ② 首は、首の骨から、こりをはがすように
揉む。そのまま肩も揉みほぐします。



盆の窪(ほんのくぼ)
後頭部の首の付け根、
中央の凹んだ部分。

ストレッチ

- ① 脇をしめて、肩をつかみます。
- ② そのまま、腕と耳をつけるように意識しな
がら腕を上げます。
- ③ 腕を横に開きます。左右の肩甲骨をつける
ような感覚で。手は肩から離さないように
ゆっくりと行ってください。



profile

宮崎 夏海

日本エステティック協会
認定エステティシヤン
リラクゼーションセラピスト



一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

会 員 名 簿

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株)	新潟支店	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
応用地質(株)	北信越事務所	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)協和コンサルタンツ	新潟営業所	940-0061 長岡市城内町3-8-7 蒼柴ビル801	025-889-8302 025-889-8304
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	北陸支店	950-0973 新潟市中央区上近江2-9-19 レジデンス近江101	025-288-6893 025-288-6894
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 NBF新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 プレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
(株)新日本コンサルタント		930-0142 富山市吉作910-1	076-436-2111 076-436-3050

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0029 富山市本町3-21 損保ジャパン日本興亜富山ビル	076-415-7800 076-415-7795
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
館下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋の場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)中部コンサルタント		933-0866 高岡市清水町3-5-9	0766-21-4536 0766-22-4370
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776
(株)ティーネットジャパン	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-7-10 新潟セントラルビル	025-246-1920 025-246-2162
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曽根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区綱川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
(株)日本インシーク	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0916 新潟市中央区米山3-1-63	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8 東大通野村ビル	025-244-2503 025-244-2573
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
(株)村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

各部会・委員会委員名簿

北 陸 支 部 役 員			
支部理事	支部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副支部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	副支部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	副支部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	運営委員長	坂 上 悟	開発技建(株)
〃	運営委員	黒 木 康 生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	瀬 川 光太郎	(株)建成コンサルタント
〃	運営委員	末 武 晋 一	日本工営(株)
〃	運営委員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	運営委員	齊 木 勝	(株)キタック
〃	運営委員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
支部監事	支部監事	高 堂 景 寿	相互技術(株)
〃	支部監事	船 谷 喜代文	旭調査設計(株)

対 外 活 動 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
	部会員	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会幹事	坂 上 悟	開発技建(株)
	部会員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	部会員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	渡 部 長 務	エヌシーイー(株)
	部会員	酒 井 大 助	八千代エンジニアリング(株)
新潟地域委員会	委員長	齊 木 勝	(株)キタック
〃	委 員	大 塚 明	エヌシーイー(株)
〃	委 員	折 笠 昇	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	田 邊 敏 夫	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	岩 澤 弘 和	(株)構造技研新潟
〃	委 員	吉 田 茂	開発技建(株)
富山地域委員会	委員長	柴 田 聡	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
〃	委 員	吉 田 勉	(株)上智
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	榮 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	二 俣 秀	(株)国土開発センター

総務部会			
	部会長	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
総務委員会	委員長	清 原 宏 二	開発技建(株)
〃	委 員	佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	佐 藤 雄 一	(株)構造技研新潟
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	浜 辺 良 彦	相互技術(株)
〃	委 員	今 野 健	エヌシーイー(株)
倫理・法令委員会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
〃	委 員	齋 藤 真 晴	開発技建(株)
〃	委 員	初 鹿 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	櫻 井 英 二	(株)国土開発センター
〃	委 員	河 原 健 二	(株)日本海コンサルタント

技術部会			
	部会長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
統括技術委員会	委員長	神 田 和 久	開発技建(株)
〃	委員	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
〃	委員	大 塚 秀 行	(株)キタック
〃	委員	西 村 治	大日本コンサルタント(株)
〃	委員	池 潤 稔	東京コンサルタンツ(株)
〃	委員	安 藤 正 幸	(株)日本海コンサルタント
〃	委員	山 森 茂 明	(株)クリエイティブセンター
〃	委員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
河川・砂防委員会	委員長	須 田 玲	エヌシーイー(株)
〃	委 員	阿左美 敏 和	(株)建設技術研究所
〃	委 員	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
〃	委 員	浜 谷 智	五大開発(株)
〃	委 員	太 原 晶	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	伊 藤 信 哉	開発技建(株)
〃	委 員	金 子 幸 生	相互技術(株)
〃	委 員	伊 藤 正 喜	(株)開発技術コンサルタント
道路委員会	委員長	木 村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	須 佐 慎	開発技建(株)
〃	委 員	首 藤 直 樹	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	森 将 恒	(株)キタック
〃	委 員	木 下 裕 康	(株)国土開発センター
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計

橋梁委員会	委員長	初 鹿 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 村 康 裕	開発技建(株)
〃	委 員	渡 邊 敦	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
〃	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	浦 修 造	(株)国土開発センター
〃	委 員	鷹 西 輝	(株)東洋設計
〃	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	塚 嶋 雅 則	東京コンサルタンツ(株)
トンネル委員会	委員長	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	須 貝 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	江 川 千 洋	(株)キタック
〃	委 員	長谷川 哲 也	サンコーコンサルタント(株)
〃	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	岩 渕 和 有	エヌシーイー(株)
〃	委 員	藤 巻 智 之	開発技建(株)
〃	委 員	荘 司 洋 文	(株)キタック
〃	委 員	森 川 大 輔	(株)国土開発センター
〃	委 員	酒 井 信 次	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	竹 内 聡	開発技建(株)
〃	委 員	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	高 橋 靖	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	西 暢 人	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	辰 橋 浩 二	(株)国土開発センター
〃	委 員	藤 巻 英 俊	大原技術(株)
若手技術者ワーキンググループ	リーダー	村 田 亨	開発技建(株)
〃	サブリーダー	中 野 達 也	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	濱 田 康 行	(株)国土開発センター
〃	委 員	一 噌 真佐志	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	石 丸 俊太郎	(株)キタック
〃	委 員	杉 田 友 樹	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	本 間 千 悠	(株)構造技研新潟
〃	委 員	風 間 恵	相互技術(株)
〃	委 員	飯 野 美 樹	エヌシーイー(株)

広 報 部 会			
	部会長	佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント
広報委員会	委員長	熊 倉 孝 次	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	新 保 和 広	相互技術(株)
〃	委 員	石 塚 英 洋	エヌシーイー(株)
〃	委 員	高 橋 宏 明	開発技建(株)
〃	委 員	飯 田 互	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	坂 原 徹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	島 由 治	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	新 家 哲 平	(株)国土開発センター
〃	委 員	諏 訪 浩	日本工営(株)
〃	委 員	國 兼 功	八千代エンジニアリング(株)
会誌編集委員会	委員長	須 藤 勝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
〃	委 員	長 田 宏 之	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	古 橋 伸 彦	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	藤 井 和 行	(株)構造技研新潟

災 害 対 策 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
新潟現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	坂 上 松 則	開発技建(株)
富山現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	初 鹿 明	大日本コンサルタント(株)
〃	副責任者	林 達 夫	大日本コンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
災害対策委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	委 員	初 鹿 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	増 山 繁 雄	北陸コンサルタント(株)
〃	委 員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

顧 問			
		藤 卷 俊 二	開発技建(株)

編集後記

猛暑続きの夏が終わったものの、毎年のように全国各地で豪雨・土砂・地震等による災害が起きています。台風15号による千葉の大規模停電も記憶に新しいところです。多様な災害が多い日本では、やはり高度な土木建設技術が必要不可欠であることと同時に、全国各地で発生する災害に対応できる人材・機材・資材も日々から充実させておく必要があると、改めて認識するところです。

ところで、秋となるとスポーツが盛んになる頃ですが、特に来年の東京オリンピック・パラリンピックが控えていることと、今まさに自国開催しているラグビーW杯も相まって、日本にいながら世界のアスリートを観戦する機会が増えました。世界で活躍する日本国籍の選手も多くなったおかげで、興味がなかった人にまで広く知られるようになった競技もあり、さらなる盛り上がりが期待されます。

普段、運動不足を自認していたり、疲れやすいと感じたりする方も多いと思います。トップアスリート並みとはいきませんが、いざという時のために少しでも運動をすることは大切です。今は一日の歩数によってポイント還元されるスマホアプリもあります。動機は不純でも始めてみてはいかがでしょうか。

古橋伸彦

発行／一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長／須藤勝彦

委員／齋藤浩幸 長田宏之 古橋伸彦 藤井和行



発 行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371
<https://hr-jcca.jp/>